心理学演習　レポート　5122020

受験者　平原拳誠

相談内容・検査の目的　自己分析

検査名　SCT　　　実施日時　令和6年10月28日　実施場所　大学

検査結果

1. 記入形式と表現形式について

未記入欄はなく、すべてに解答済み。記入量はそこまで多いものでなく、短文であった。また前半では比較的文が短かったが、後半では文章が長くなった。これはSCTの記入に対して後半になるにつれて被験者が馴れたことが要因だと考える。誤字脱字は少なく、真摯に回答しようという姿勢がみられた。

1. 自己像に関する特徴

　自分の現状については比較的肯定出来ているように感じられ、自分に関する設問（服とか）について見ていくとポジティブなことが記されている割合が高かった。ただ過去の経験に関する設問においてはネガティブな印象を持つ回答が多かったように感じる。このことから過去の嫌な記憶や経験があったからこそ、今の自分に対して好意的な印象を持っているからではないかと考えた。苦い記憶の中でも被験者は高校生の時の経験が一番苦しかったことが「もう一度やり直せるなら」という設問から明らかであった。自分の体については満足していなく、もっと体力をつけることが自分にとって望ましいという考えを抱いていることが分かった。以上より、過去の苦い経験を乗り越え、自分のことを受け入れ始め、自分のことをあらゆる面において向上させたいという意思を持っていることが分かった。

1. 価値観について

被験者は称賛や敬意、承認など社会的欲求が強い傾向がみられる。向上心があり、社会的地位が高いところに上り詰めたいという野心も感じる。「仕事」「私の野心は」という設問から読み解くことができる。またお金に関してもたくさん稼ぎたいという意思がみられ、お金が欲しいからこそ社会的地位の上位に強いあこがれを持っているともいえる。

1. 対人関係について

　対人関係は概ね良好であるといえる。また人付き合いを大切にするほうであり、特に自分の家族と強い関係を持っていることが分かった。

1. 対社会的態度

　他者との協調性に関しては先述した通り、対人関係が良好なため、一定の能力はあるといえる。

ただ衝動性が人よりもあると考えた。「私はよく」の設問からである。被験者自身も衝動性があることを理解している。ライフサイクルに当てはめてみると結婚というイベントが被験者にとって大きいものであるということが分かった。先ほど家族との関係が強いということを述べたがそれが一つの要因となっていると推察する。

1. 全体として自分が好きなもの・嫌いなものの区別がはっきりしているという印象を受けた。興味がないことはしない、時間をかけたくないといったように、ある意味現実主義者なのかもしれない。また情緒豊かで感情が表に出やすい人物であることが分かった。

総合所見

結果から分かる被験者は、感情が豊かで社会的地位に上り詰めたい野心家で責任感がある人物であることが分かった。また家族を大切にすることができ、何よりも家族とのつながりを重要視していることも結果から分かった。ただ感情が表に出やすい分、それが原因でなにかトラブルに巻き込まれる危険性も持ち合わせている。被験者がこれからの人生をよりよくするには自分の感情をもっとコントロールできるように訓練する事だと考える。